

第 二 回

全日本カッター競技大会

〔日 時〕 昭和 33 年 5 月 25 日 (日)

〔會 場〕 神 戸 市 深 江 沖

〔主 催〕 日本カッター連盟設立発起人会

〔後 援〕 毎 日 新 聞 社

ス ポ ー ツ ・ ニ ッ ポ ン 社

日 本 海 事 新 聞 社

＝ 誇 る 傳 統  輝 く 技 術 ＝

神 東 塗 料 會 社

本 社 尼 崎 市 尾 浜 字 国 広 1-1

支 店 東 京 都 江 東 区 深 川 木 場 3-13

出 張 所 札 幌 ・ 仙 台 ・ 名 古 屋 ・ 大 阪 ・ 広 島 ・ 福 岡

造 園 と 貸 盆 栽

園 芸 用 資 材

肥 料、農 具、農 薬

御 贈 答 に

花 束、花 か ご を

商 船 大 学、海 技 専 門 御 用 達

二 樂 園 株 式 會 社

電 話 神 戸 ⑧ 2 8 2 0 番

神 戸 市 東 灘 区 本 山 町 岡 本 4 4

全日本カッター競技大会に寄す

神戸商船大学長 大 羽 真 治

本学第七回創立記念祭を举行する機会に、日本カッター連盟主催の第二回競技大会を、本学を会場とし、小職を会長として実施するにいたつたことは、本学記念祭行事に一異彩をそえることともなり、真に光栄のいたりである。九つの大学、百数十名の海の若人が、本学前面の海上に、おのおの母校の名誉をかけ、技と力の限りをつくして、相競う豪快な海の一大祭典は、若き海の学徒にとつて、血湧き肉躍るの感を抱かせねばおかまいであらう。特に本競技が、実用とスポーツを兼ねた点で学生競技としては理想的なものであり、海の大学の交歓試合として、もつとも好ましいものである。私は本競技の選手諸君が、海洋人として、厳正な規律と態度を矜持し、大学生としての智性と教養の上に、真にスポーツ界における模範的競技たらしめるよう、切角努力あらんことを切望するものである。

挨拶

昨年6月日本カッター連盟設立発起人会が発足すると同時に我々の体力を練磨し、技能を向上せしめ、合せて海に生きる海国日本の若人の志気と不屈の斗志を示威する為に東京に於て第1回全日本カッター競技大会を開催致しましたが、本年は会場を神戸に移し、神戸商船大学開学記念日に举行致す事になりました。我々は近く日本カッター連盟を組織し今後本大会を毎年存続させ、より向上、発展させて行きたい意向であります。本大会を開催するに当り絶大なる御理解の下に御支援を戴きました方々に深く感謝の意を表します。

昭和33年5月

日本カッター連盟設立発起人会 (50音順)

	部	長	主	将	
海上保安大学校	片岡勝之	中山茂	一		
鹿児島大学	高橋健藏	衛藤隆	一		
東京商船大学	中島保司	久保田匡			
東京水産大学	山口教官	石村政一			
長崎大学	麻生幸則	松本祐実			
農林省水産講習所	橋本市雄	平松吉英			
防衛大学校	是枝義貞	立石格			
三重県立大学	細川鉄雄	浜端康平			
神戸商船大学	西原義久	野々村雅典			

目次

挨拶	1
大会役員及び大会委員	2
コース附近略図	3
出漕クルー	4~8
番組及びレースの見方	9
審判規則	10

大 會 役 員

会 長	神 戸 商 船 大 学 長	大 羽	真 治
役 員	海 上 保 安 大	片 岡	勝 之
	鹿 児 島 大	高 橋	健 藏
	東 京 商 船 大	中 島	保 司
	東 京 水 産 大	山 口	芳 男
	長 崎 大	麻 生	幸 則
	農 林 省 水 産 講 習 所	橋 本	市 雄
	防 衛 大	是 枝	義 貞
	三 重 県 立 大	細 川	鉄 雄
審 判 長	神 戸 商 船 大	西 原	義 久

大 會 委 員

委 員 長	野 々 村 雅 典		
審 判	野 上 正 典	長 谷 川 慎 三	宮 森 勝
接 待	岡 室 文 雄	前 川 信 昭	麻 野 勝 彦
記 録	藤 原 正	三 木 楯 彦	
配 船	中 積 郁 雄	武 内 周 二	
進 行	浜 田 裕 稔	井 上 義 昭	
会 場	松 本 清		
連 絡	溝 内 清 司		
保 安	井 上 逸 雄	寺 島 咸 夫	

祝 全日本カッターレース

本のことなら何でも海文堂へ



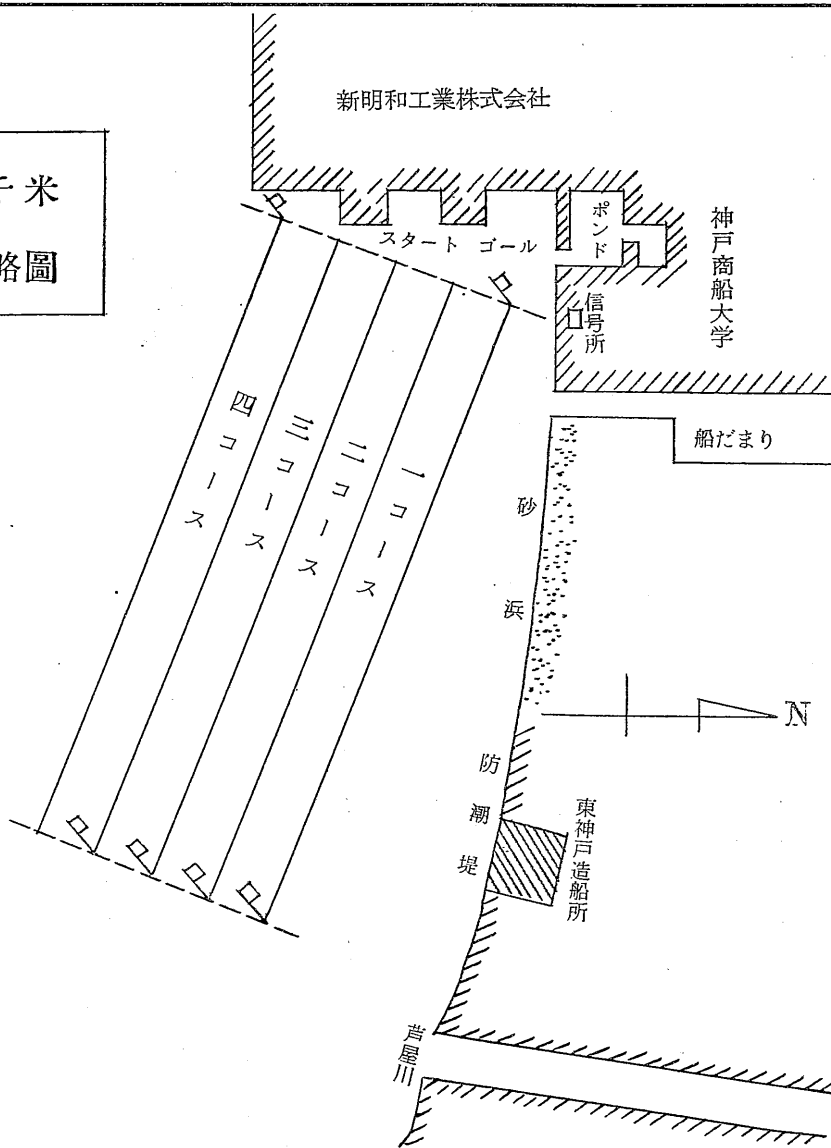
新図書目録進呈

海 事 図 書 出 版
新 刊 書 籍 ・ 雑 誌

海 文 堂

神 戸 市 生 田 区 元 町 通 3 丁 目
TEL. ③ 2 6 6 4 ・ 6 5 0 1 ・ 6 5 0 2
東 京 都 千 代 田 区 神 田 神 保 町 2 丁 目

深江沖二千米
コース附近略圖



旅 館 ・ す き 焼 ・ 洋 食

各大学スポーツ部指定 宿舎
読売巨人軍指定

本 竹 園

芦屋市大原町一四五
電話 4 6 3 9 番 4 9 1 9 番

出 漕 ク ル

海 上 保 安 大 學 校

	氏 名	身長	体重	科・学年	出身高校・県
顧問	片岡勝之	165	55	4	帯広柏葉高校(北海道)
艇指揮	◎中坂本森秀生	169	56	4	竜野高校(兵庫)
艇長	1 富森	158	52	1	長崎東高校(長崎)
2	北大沢	158	58	1	豊多摩高校(東京)
3	大賀	166	55	1	芦屋高校(兵庫)
4	田所征彦	163	60	1	高岡高校(富山)
5	山口晃	170	65	1	ラ・サール(鹿児島)
6	白水康雄	175	59	1	兵庫高校(兵庫)
7	松野世志	172	71	3	熊本高校(熊本)
8	大西一実	173	73	3	宇治山田高校(三重)
9	柳田幸三	175	61	1	栃木高校(栃木)
10	本多悦郎	168	55	1	仙台二高校(宮城)
11	若宮貞夫	179	71	3	芦屋高校(兵庫)
12	田坂茂	168	60	3	国泰寺高校(広島)
補	伊藤実	164	53	1	土浦一高(茨城)
補	○安部俊光			4	

鹿 児 島 大 學

顧問	高橋健藏	161	57	漁業科 3年	大村高校(長崎)
艇指揮	佐々木良孝	160	58	" 3年	松橋高校(熊本)
艇長	丸山敏彦	165	63	" 1年	山口高校(山口)
1	都築	165	62	" 3年	鞍手高校(福岡)
2	山方信雄	165	62	" 2年	大崎浦高校(東京)
3	西井健次	160	60	" 2年	向丘高校(東京)
4	梶村尚志	178	65	経営 4年	小豆島高校(東京)
5	◎衛藤隆一	172	65	漁業 1年	鹿児島高校(鹿児島)
6	木原公道	174	64	" 3年	三池高校(福岡)
7	宝田哲史	165	70	" 3年	上田松尾高校(長野)
8	西村栄一郎	172	61	製造 2年	大分舞鶴高校(大分)
9	神頭勝重	165	66	漁業 3年	若松高校(福岡)
10	兄玉光郎	170	75	" 3年	修猷館高校(福岡)
11	中島敏明	171	63	" 3年	西田川高校(福岡)
12	慶田敏行	178	61	" 1年	南葛飾高校(東京)
補	○小原博義	165			
補	清水政雄	178			

安心して飲める洋酒の店

キ

ミ

東 亜 劇 場 下 ル

神 戸 商 船 大 學

顧問 艇指揮 艇長	西原義久	典雅	175	68	N 4	山	城	高	校(京	都)
1	◎野々村	鈴緒	165	50	N 4	尼	崎	高	校(兵	庫)
2	浜口	敏雄	170	63	E 3	神	戸	高	校(兵	庫)
3	赤井	政和	165	58	N 3	六	甲	高	校(兵	庫)
4	大城	正則	165	64	N 3	瀬	田	高	校(滋	賀)
5	東	俊雄	171	62	N 2	京	工	大	附	工
6	笹	恒義	169	64	E 2	成	台	高	校(宮	城)
7	梅山	一	163	65	N 3	仙	東	高	校(千	葉)
8	上田	一郎	170	64	N 2	成	尾	工	校(大	阪)
9	山内	悟	177	65	N 3	鴨	沂	高	校(京	都)
10	余田	光	165	62	N 3	六	甲	高	校(兵	庫)
11	旭	謹	172	62	E 2	鶴	見	丘	校(大	分)
12	吉	三	164	62	N 4	福	知	山	校(高	都)
補	西	昇	165	62	N 4	武	上	高	校(福	井)
補	横	七	168	61	E 2	生	野	高	校(東	京)
	高	潔	167	63	N 2	國	部	高	校(京	都)
	岡	文	164	58	E 3	生	野	高	校(大	阪)

東 京 商 船 大 學

顧問 艇指揮 艇長	中島保司	匡	174	61	N 4	大	館	鳳	鳴
1	久保田	嘉彦	166	56	N 3	修	飲	ヶ	館
2	中村	孝夫	162	61	E 3	武	藏	保	丘
3	長竹	義明	162	58	N 3	佐	世	津	北
4	岡林	史朗	171	66	E 3	沼	立	立	東
5	氏原	諦	170	64	E 3	都	立	光	西
6	川名	靖	168	61	N 4	都	立	光	西
7	石川	春	168	62	N 4	都	立	光	西
8	宮沢	仁一	169	70	N 3	北	豐	島	工
9	菊島	誠一	168	68	E 3	広	島	長	船
10	海野	隆	170	68	N 3	神	戸		田
11	東林	之也	170	64	N 4	諫			早
12	林	哲	170	67	N 4	高			鍋
補	萩	喜	173	64	N 4	館			林
補	松	衛	174	65	E 4	都	立	北	野
補	吉	卓	162	57	E 4	白			河
補	岡	勝	163	57	N 4	麻			布

米 薪 酒 ビール 醬 油
穀 炭資 社
合 会

松 尾 商 店

深 江 電 停 南

電 話 芦 屋 3 1 0 9 番

商船大学御指定店

出 漕 ク ル 一

東 京 水 産 大 學

顧問	山口政	官一	171	72	漁業科	3年	旭川	西(北海道)
艇指揮	◎石村	藤公	165	60	"	3年	甲府	高(山梨)
艇長	上伊	藤公	170	65	"	2年	新居	東(愛媛)
1	品川	清	168	65	"	2年	藤岡	高(群馬)
2	河原	豊	175	63	"	2年	千	才(東京)
3	植岡	竜太郎	180	68	"	2年	福知	山(京都府)
4	福永	隆平	170	60	"	2年	関西	学(兵庫)
5	金子	隆昭	175	70	"	2年	熊谷	高(埼玉)
6	中村	次信	168	66	製造科	2年	教育	附(東京)
7	末次	田武	173	65	漁業科	3年	熊本	高(熊本)
8	源熊	谷宏	167	63	"	2年	西宮	高(兵庫)
9	熊下	城宏	166	64	"	2年	鎌倉	高(神奈川)
10	大松	岡隆	162	60	増殖科	2年	前橋	高(群馬)
11	大松	岡隆	167	60	漁業科	2年	茨木	高(茨城)
12	松芹	沢上	162	59	"	2年	山速	東(愛媛)
補	補	明宏	160	55	"	2年	浪野	高(大阪)
補	補	明宏	160	55	"	2年	生野	高(大阪)

長 崎 大 學

顧問	麻生幸	則市	163	58	漁業科	3年	佐世保	工高(長崎県)
艇指揮	◎吉木	武祐	160	58	"	"	大牟田	高(福岡県)
艇長	◎松本	祐儀	160	63	"	"	舞鶴	高(大分県)
1	植木	原儀	172	60	"	"	佐世保	南高(長崎県)
2	中砂	山守	163	65	"	"	四日市	高(大分県)
3	吉岡	義正	166	60	"	"	中津	高(大分県)
4	中島	隆徳	167	70	"	"	天草	高(熊本県)
5	村岡	英雄	160	67	"	"	小倉	高(福岡県)
6	片瀬	公敏	175	65	"	"	熊本	高(熊本県)
7	荒木	英敏	171	60	"	"	熊朝	倉高(福岡県)
8	永吉	公義	171	58	"	"	小倉	西高(福岡県)
9	秋吉	村須	170	60	"	"	杵築	高(大分県)
10	上属	公敏	168	63	"	"	土佐	高(高知県)
11	福原	和夫	166	60	"	"	八幡	高(福岡県)
12	福治	郎九	170	57	"	"	下関	西(山口県)
補	補	正彦	168	63	"	"	大垣	高(岐阜県)

神戸市東灘区本庄町深江稻荷筋四丁目六番地

株式
会社

神 戸 銀 行 本 庄 支 店

支 店 長 梶

武 雄

農 林 省 水 産 講 習 所

顧問	橋本雄								
艇指揮	新井茂次	161	60	機関科	3年	熊谷(埼玉)			
艇長	◎平松吉英	160	55	漁業科	3年	杵築(大分)			
1	津留利生	169	65	〃		伝習館(福岡)			
2	高倉潤二	175	70	製造科	2年	延岡恒富(宮崎)			
3	坂本博康	163	59	漁業科	2年	根室(北海道)			
4	椎木宗武	172	65	〃		高鍋(宮崎)			
5	牛島武久	171	64	〃		山鹿(熊本)			
6	疋田徹彦	173	67	〃		桜塚(大阪)			
7	福井文望	168	69	〃		由良育英(鳥取)			
8	藤井望良	168	72	機関科	3年	萩(山口)			
9	下田哲保	172	62	漁業科	3年	三池(福岡)			
10	岡智保	170	65	〃		山門(福岡)			
11	関屋村宏	160	55	増殖科	3年	佐世保北(長崎)			
12	岩村宏	168	64	〃		朝倉(福岡)			
補	◎藤岡丈	166	58	漁業科	4年	徳山(山口)			
補	吉見幸章	170	66	漁業科	2年	別府鶴見丘高校(大分)			

防 衛 大 學 校

顧問	是枝義貞			海応用物理 4	向ヶ丘高(東京)
艇指揮	◎立石哲雄	160	60	海・機械 4	小城北高(佐賀)
艇長	乗富邦夫	170	61	海・航空工学2	浜田高(島根)
1	入江貢司	163	63	海・電気 2	誠之館高(広島)
2	藤田貢夫	166	64	陸・電気 2	福島高(福島)
3	紺野晃夫	165	63	海・電気 3	水沢高(岩手)
4	猪狩真也	168	62	海・	3 岡山東商業高(岡山)
5	金平芳也	173	69	海航空工学 3	ラサール高(鹿児島)
6	南雅雄	167	65	海・電気 2	観音寺一高(香川)
7	矢野政良	167	64	海・航空工学2	熊本高(熊本)
8	宮永武幸	170	60	空・応用物理2	小山合高(東高)
9	大橋武郎	167	63	海・電気 3	茨木高(大阪)
10	中川克彦	172	68	海・応用物理3	加世田高(鹿児島)
11	森敏成	164	64	空・電気 2	水戸一高(茨木)
12	菅友彦	166	65	海・航空工学3	熊本高(熊本)
補	◎西沢敬雄	163	55	陸・電気 2	五島高(東京)
補	田口三善	162	59		

紙 ・ 印 刷 ・ 文 具

株 式 会 社 ハ シ ダ 紙 文 具 店

神 戸 市 東 灘 区 本 庄 町 深 江 七 五 五

電 話 { 神 戸 屋 ⑧ 一 〇 一 六 番
 { 芦 屋 一 三 二 九 七 番

出 漕 ク ル ー

三 重 県 立 大 學

顧問	細川鉄雄						
艇指揮	金子決	164	61	漁撈 4	伊勢崎高校(群馬)		
艇長	○座間康文	169	61	漁撈 3	富士高校(東京)		
1	吉村寿洋	166	60	// 2	西宮高校(兵庫)		
2	稲葉秋生	172	55	// 1	津高校(三重)		
3	竹田桂	170	60	// 2	名古屋西高校(愛知)		
4	伊藤登美雄	170	65	// 2	桑名高校(三重)		
5	富永正晴	165	70	// 2	四日市高校(三重)		
6	藤村昭	173	65	// 2	小牧高校(愛知)		
7	杉山十六生	165	66	// 2	津工高校(三重)		
8	久保田衛	166	60	// 2	宇治山田高校(三重)		
9	○浜端康平	173	63	// 2	京都府立水産高校		
10	永津栄二	171	62	// 2	昭和高校(愛知)		
11	加藤伊蘇志	165	65	// 4	西尾高校(愛知)		
12	平田正男	163	65	// 2	松阪高校(三重)		
補	境富男	162	62	増 2	宇治山田商工高校(三重)		
補	井上	165	60	漁撈 1	石和高校(愛知)		

海 技 専 門 學 院 (特 別 参 加)

顧問	後藤田登志之						
艇指揮	○山崎信	172	57	日本郵船			
艇長	○林尚男	163	63	日本郵船			
1	山本香	165	60	東西汽船			
2	魚野政成	162	62	東洋汽船			
3	高山仁一	173	65	飯野海運			
4	光岡武夫	174	63	大同海運			
5	木村孜	172	67	三菱海運			
6	斉藤六郎	175	65	朽木汽船			
7	斉藤静夫	171	62	東京水産大学			
8	古谷進	168	68	新日本汽船			
9	村松英一	167	67	三菱海運			
10	東村泰広	168	65	日本郵船			
11	西堀嘉郎	168	63	航海訓練所			
12	金子昇二	167	64	日の丸汽船			
補	島崎慎	176	62	大阪商船			
補	宗田寛	168	56	日本郵船			

猩 々 寿 し

深江稻荷劇場前

電話四九五四(呼)

キリン生ビールを始めました。

ゆ か り

阪神国道小路電停前

時 刻	種 目	コース	校 名	着 順	タ イ ム
1 0 0 0	開 会 式				
1 0 3 0	予選第1レース				
1 1 0 0	予選第2レース				
1 1 3 0	予選第3レース				
1 2 0 0	昼 食				
1 3 3 0	順位決定レース				
1 4 0 0	順位決定レース				
1 4 3 0	決 勝 レ ー ス				
1 5 0 0	閉 会 式				

レ ー ス の 見 方

本大会に使用される艇は外板鐵張で長さ9米12人漕のカッターである。マストを立てて帆走も出来る様になつてゐる艇を操作している者をクルーと称し、その名称は右舷（艇尾より艇首に向つて右側）の最も艇首に近い者が1番、左舷の艇首に近い者を2番（この2人をBow menと云う）右舷艇首より2番目のものを3番…と呼び、一番艇尾寄で漕いでいるのが11番12番で stroke men と呼ばれる。艇尾に坐つて舵を握つてゐるのが艇長である。艇の指揮号令を掌どつてゐるのを艇指揮と称し、レース中種々号令をかけクルーをまとめる。

スタートは各艇の艇首が略一直線に並んだ時に旗、笛、ピストルの信号でスタートする。スタート時の漕法は各チーム夫々異なるが、少しピッチを早くし、2～30本にてコンスタントピッチに落す。ピッチとは漕率であつて1分間に漕ぐ速さであり、コンスタントピッチは大体30前後である。スタートより半漕の所に各コース毎に旗が海に立てられており、各艇はこれを左曲り（反時計廻り）に回頭して帰つて来る訳で、即ちスタートラインがゴールラインとなる訳である。コースは往復約1漕（1852米）である。カッターレースは多く海で行はれる為、そのコースに於ける海、潮流、その日の風、波等の関係で新記録という様な事は記録されない。

尚第1回全日本カッター競技大会（於・東京）の順位は次の如し。

①東京水産大学 ②東京商船大学 ③神戸商船大学 ④防衛大学 ⑤農林省水産講習所 ⑥海上保安大学

審 判 規 則

1. 使用艇、オール及コースはレースの都度、抽選により決定する。
 2. スタート
 1. 各艇は指定の時刻、コース順に従いスタートラインに整列する。
 2. 5分前をマイクにより通達、スタートブイに着く、ブイに着き用意が完了したら艇長は陸上の審判員に手を挙げて合図する。
 3. スタートラインに於ける各艇の艇身以内の凹凸は認める。
 4. スタート用意、任意に笛をピツピツ（短声）、手旗2原画笛ピー（長声）、手旗の頭上の赤旗を一回転（0を画く）する。
 5. スタート、頭上に来た赤旗を垂直に振下すと同時にピストル2発を打つ。
 3. 審判長又は審判員がスタートを不完全と認めた時は直ちにレースを中止せしめ、スタートラインに呼び返す。
信号、手旗信号符、旗流N、審判艇コース横断、
 4. スタートに於ける号令前の飛出し及び艇の事故によるスタートの遅速等は2回で失格である。
 5. 回頭は左回頭（反時計廻り）とする。回頭は指定の回頭旗を回頭するものとし、他の回頭旗を回頭した場合は失格である。
 6. ゴール、艇首が規定のゴールラインに入つた順序をもつて順位とし、順序は審判員が判定する。
 7. 同着の場合は追込艇の勝とする。
 8. ゴールイン時のスタートブイのタッチは失格としない。
 9. 各艇は自己のコースを航行し、もしこれを誤つて他艇に接触その他不正行為があつたと審判員の認めた時は失格とする。
 10. レース中のコースに於ける障害、自艇の故障等は他艇の不正なる接触を除く他各艇自らこれを忍ぶべきものとする、しかし審判長の判断によりこの限りでない時もある。
 11. レースに関する異議申立は艇長が行い、審判長が裁決する。
- ◎ オールは予備2本を積む、オールを流したままゴールインしてはならない（折れた時はこの限りでない）
- ◎ クルーの予備員は2名以内に於て各レース毎に番替可能である。



営 業 御 案 内

ク リ タ 清 罐 劑 ・ イ オ ン 交 換 樹 脂
汽 罐 化 学 洗 滌 ・ 断 熱 煉 瓦
助 燃 劑 ・ 除 鉄 装 置

栗 田 工 業 株 式 会 社

本 社 大阪市大淀区豊崎西通二丁目二四番地 電話大阪⑦9081—8
中央研究所 兵庫県西宮市川東町五番地 電話西宮②4127—8
東京支店 東京都渋谷区山下町二番地 電話白金9300—2・9304
九州支店 福岡県小倉市三萩野字旦過堤1062の29 電話小倉⑤7231—2
神戸分室 神戸市生田区浪花町二七番地 電話神戸③4151—2

祝 全日本カッター競技大会

帝国産業株式会社特約店

日本ペイント株式会社特約店

神戸船用品株式会社

神戸市生田区東川崎町四丁目四七

電話 ⑤ { 七六〇七・七六〇八番
九三〇六・九五六九番

鋼索・麻綱・化繊・船具・塗料

東京製綱株式会社	}	代理店
大阪ロープ工業株式会社		
芦森工業株式会社		
東亜ペイント株式会社		
大日本ペイント株式会社		
東京針金工業株式会社		
株式会社東京計器製造所		

カナエ商事株式会社

本社 { 神戸市兵庫区湊町一丁目五四
電話 神戸 ⑤ 8150 ~ 3番

出張所 { 高知市農人町三八
電話 高知 ② 代表 8169・8160番
大阪市浪速区桜川町四丁目一四二三
電話 大阪 ⑤ 5350番

—— 祝 第二回全日本カッター競技大會 ——

木船並びに鋼船の建造修理

兵庫造船株式會社

神戸市兵庫区遠矢町七丁目二
電話 ⑤ 三一七七（三一七八）